

2024年度 第3回 早慶上理難関国公立大模試 国語 採点基準

□ (評論) 採点基準 (合計≒50点)

問一 4点×2≒8点

(解答) X≒ニ Y≒口

問二 6点×2≒12点

(1) 6点

(模範解答例)

A○2点

B○4点

宮倉は個人的に渴きの状態にないと頑張れない体質なのだろうが、田代や自分にまで渴きを強制しているから。(50字) (6点)

■各加点要素の加点の条件

【A・Bに関して部分採点を行う(A・Bそれぞれ単独に採点を行って構わない)】

A 「宮倉は個人的に渴きの状態にないと頑張れない体質」(2点)

※宮倉の体質の説明。

▲たんに「宮倉は自分達とは違う体質」のように、「体質が違う」ということしか書かれていない場合は、▲1点。

○Aの内容が「宮倉」だと文全体で分かれば、Aの位置に「宮倉」と書かれていなくても構わない。

B 「田代や自分にまで渴きを強制している」(4点)

○「宮倉のやり方を(自分たちは)強制されている」という内容があること。

▲文末不備：▲1点減点

(2) 6点

(模範解答例)

A○3点

B○3点

宮倉は登山の給水や体調管理について正しい発言をしているが、柔軟性に欠け田代や自分への配慮がないから。(50字) (6点)

■各加点要素の加点の条件

【A・Bに関して部分採点を行う(A・Bそれぞれ単独に採点を行って構わない)】

A 「宮倉は登山の給水や体調管理について正しい発言をしている」 (3点)

○ 「正しい発言」は「正論／合理的発言」などでも可。

△ 「宮倉は正しい発言をしている」のように、「登山の給水や体調管理について」の部分が抜けている場合、
△2点。

B 「柔軟性に欠け田代や自分への配慮がない」 (3点)

○ 同内容であれば可。

○ 「仲間が苦しんでいる様子を見ても 気にもかけない／気遣いもしない／励ましの言葉もない」などで○。

▲文末不備…▲1点減点

問三 3点×2＝6点

(解答) a 〓 へ b 〓 ハ

問四 4点

(解答) イ

問五 10点

(模範解答例)

A ○5点

自分の代わりに汲んできた貴重な水をこぼしたことを嘆いているとともに、自分と同じような失敗をした友人

B ○5点

の意外な愚かさに同情や哀れみを感じている。(70字) (10点)

■各加要素の加点の条件

【A・Bに関して部分採点を行う(A・Bそれぞれ単独に採点を行って構わない)】

A 「自分の代わりに汲んできた貴重な水をこぼしたことを嘆いている」 (5点)

※ 「泣き笑い」の「泣き」の内容

✖ 「水をこぼし(無くなつ)た」内容(2点)がないものはA ✖。

▲① 「自分(田代)の代わりに()に続いて(主人公も)」のヌケは▲2点減点。

▲② 「嘆き」「悲しみ」など「泣き」の感情を表す語のヌケは▲1点減点。

B 「自分と同じような失敗をした友人の意外な愚かさに同情や哀れみを感じている」 (5点)

※ 「泣き笑い」の「笑い」の内容

※ 「自分」 Ⅱ 「田代」、「友人」 Ⅱ 「主人公」。

① 「自分と同じような失敗をした友人」の内容に2点

② 「愚かさに同情や哀れみ(を感じている)」の内容に3点。

▲ 「静的」の説明のヌケは ▲ 1点減点。

問六 5点

(解答) ホ

問七 5点

(解答) ハ

□ (評論) 採点基準 (合計 50 点)

問一 2点×4＝8点

(解答) 1 施行 2 貨幣 3 促 4 変遷

問二 3点

(解答) 二

問三 6点

(模範解答例)

A○2点

B○2点

C○2点

家庭の安定が 国の安定につながるとする 家族絶対主義に基づく言説。(30字)

■ 字数：三十字以内 十四字以下のものは全体不可 (0点)

■ 加点要素の加点の条件

A 「家庭の安定が」(2点)

※ 家族と国家の関係性のうち、家族のあり方について説明していないものは✕。要素A加点なし。

B 「国の安定につながる」とする(2点)

※ 家族と国家の関係性のうち、国家の安定ということについて説明していないものは要素B加点なし

C 「家族絶対主義の言説」(2点)

※ 要素A・Bは、家族絶対主義に基づいた言説であるということについて説明していないものは要素C加点なし

① 「家族絶対主義」で1点、② 「言説」「意見」などで1点とする。

(模範解答例)

A〇2点

B〇2点

C〇2点

家庭的な温かい雰囲気~~で、~~外で働いて疲労した父親の力を回復させる~~。~~家族がもつ機能。(39字)(6点)

■字数：四十字以内 **十九字以下のものは全体不可(0点)**

■形式上の不備

- ・文末表現…要素C参照/理由説明の結び「**〜から**」**になっている場合は、要素C不可。**
- ・句点の扱い…▲1点減点

■各加点要素の加点の条件

A「家庭的な温かい雰囲気で」(2点)

※本文最終段落にある、「家庭的な温かい雰囲気」ということについて説明していないものは要素A加点なし。

B「外で働いて疲労した父親の力を回復させる」(2点)

※本文最終段落にある、「父親の力を回復させる」ということについて説明していないものは要素B加点なし。

C「家族がもつ機能」(2点)

※要素A・Bは「家族がもっている機能」であることを説明していないものは要素C加点なし

問五 6点

(模範解答例)

A ○2点

B ○2点

C ○2点

人類の生命の維持や

存続に

欠かすことのできない行為。

(25字)

(6点)

■字数：二十五字以内

十二字以下のものは全体不可(0点)

■形式上の不備

- ・文末表現…要素C参照/理由説明の結び「〜から」になっている場合は、要素C不可。
- ・句点の扱い…▲1点減点

■各加点要素の加点の条件

A 「人類の生命の維持や」(2点)

※ 「空気」「寝る場所」「火」が人間の生存に必要なものであるということを説明していないものは要素A加
点なし

B 「存続に」(2点)

※ 「生殖」が人類の存続に必要なものであるということを説明していないものは要素B加
点なし

C 「欠かすことのできない行為」(2点)

※ 要素A・Bはなくてはならないものであるということの説明していないものは要素C加
点なし。

問六 5点

(解答) 口 (5点)

問七 16点

(模範解答例)

A ○3点

B ○3点

C ○2点

近世社会では、配膳式が主流で

家族別々に食べ物が盛られ、

そこに家族以外の成員が入ってくることも

D ○2点

E ○3点

あったが、近代になって、核家族化したサラリーマン階層の家庭で、ちやぶ台に家族全員が集まり

F ○3点

「皿の副食物を食む」という形態に変化したという経緯。

(118字)

(16点)

■字数：百二十字以内

五十九字以下のものは全体不可(0点)

■形式上の不備

- ・文末表現…要素F参照／理由説明の結び「〜から」になっている場合は、要素F不可。
- ・句点の扱い…▲1点減点

■各加点要素の加点の条件

- ※A↷Cは「近世社会」の内容。A↷Cの内容が書かれていても「近代」の内容として書かれている場合✖。加点しない。
- ※A↷Cの内容に「近世社会(前近代)」という明示がなく、「以前は」など曖昧な場合は、Aの要素から2点減点(▲)とする(Aは△1点)。A↷Cから変化してD↷Fになるということが読み取ればB・Cは加点対象とする。

A 「近世社会では、配膳式が主流で」(3点)

- ※近世社会(近代以前)では配膳式であったことを説明していないものは要素A加点なし。

B 「家族別々に食べ物が盛られ」(3点)

- ※近世社会では家族が別々に食べ物が盛られていたということを説明していないものは要素B加点なし。

C 「そこに家族以外の成員が入ってくることもあったが」(2点)

- ※要素A・Bの場合、家族以外の成員も入ることがあるということを説明していないものは要素C加点なし。

※D↷Fは「近代」の内容。D↷Fの内容が書かれていても「近世社会(近代以前)」の内容として書かれている場合✖。加点しない。

※D↷Fの内容が「近代」という明示がない場合、Dの要素とし2点減点(✖)とする。「近世社会から変化」してE・Fになったということが読み取れば、E・Fは加点対象とする。

D 「近代になって、核家族化したサラリーマン階層の家庭で」(2点)

- ※近代の核家族化したサラリーマン階層の家庭についての説明をしていないものは要素D加点なし。

E 「ちゃぶ台に家族全員が集まり」(3点)

- ※要素Eではちゃぶ台に家族全員が集まっていたということを説明していないものは要素E加点なし。

F 「一つの皿の副食物を食べるという形態に変化した」という経緯」(3点)

- ※要素Fは一つの皿の食べ物を家族全員で食べるということを説明していないものは要素F加点なし。

※要素AからFに触れていても誤読と考えられる流れで説明されている場合は加点しない。

(採点例①を参照のこと)

▲要素ごとの内容に不備がある場合は、2点減点(2点配点の箇所は0点)とする。

(採点例②を参照のこと)

三 (古文) 採点基準 (合計50点)

問一 1点×3＝3点

(解答) a とうぐう b つぼね

○ みゆき

■ 表記・字数

- ・ ひらがな・現代仮名遣いでなくてはならない。
- ・ 句読点不要 (不問)。

■ 各加点要素の加点の条件

- a 「はるのみや」も可○。他は✕。
- b 正解以外は✕。
- c 「いこう」も可。他は✕。

問二 2点×3＝6点

(解答) ① ね ② む ③ な

■ 表記・字数

・ ひらがな・一字でなくてはならない。

■ 各加点要素の加点の条件

- ① 正解以外は✕。
- ② 「ん」も可○。他は✕。
- ③ 正解以外は✕。

問三 1点×2＝2点

(解答) (1) 口 (2) 二

(解答例)

A〇2点

B〇2点

C〇1点

二組に分かれて、どちらの組が先にその年最初の郭公の声を聞くかを競い合うこと。(5点)

■ 表記・字数

- ・ 四〇字以内。
- ・ 「こと」が望ましいが、説明が成立していればそれ以外でもよい。
- ・ 句読点の有無不問。

■ 各加点要素の加点の条件

A 「二組に分かれて」(2点)

- 「二組に分かれて・組に分かれて・左右に分かれて」の意が読み取れればよい。
- ▲ 「チーム」等カタカナ語がある場合は一件につき▲1点減点。

B 「どちらの組が先にその年最初の郭公の声を聞くかを」(2点)

- ① 「どちらが先に郭公(ほととぎす)の声を聞くかを」の意があれば【1点】。
- ② 「郭公の声」について「今年(その年)最初の」の意もあれば【+1点】で、【2点】。
- ※ 「今年(その年)最初の・鳴き始める」の意が明らかでない場合は「初音」とあっても右の【+1点】②は得られない。

- 「どこで・どちらから・どの場所で・右近の馬場と東山のどちらで」等、場所や方角の説明の有無は不問。

C 「競い合うこと」(1点)

- 「競い合う・勝負」等の意があればよい。

問五 5点×2＝10点

甲 (5点)

(解答例)

A〇1点

B〇1点

C〇1点

D〇2点

春宮は、すぐに上皇の御もとへお出かけになった。

■ 各加点要素の加点の条件

A 「春宮は」(1点)

※ 主語の補い

- 「春宮」は「親王・熙仁親王・皇太子・東宮」でもよい。

B 「すぐに」(1点)

※ 「やがて」の解釈

- 「そのまま」でもよい。

C 「上皇の御もとへ」(1点)

※「あの御方」の意味の明示 ①②がそろって○

①「上皇」は「後深草上皇・院・後深草院・院の御方」等でもよい。

②「の御もと」は「のところ・の部屋」等でもよい。

D 「お出かけになった」(2点)

※「なりぬ」の解釈

○「行く・出かける」+尊敬(〴〵なざる・お〴〵になる) +過去(〴〵た)で【2点】。

×「行く」の意がない場合は×0点。

▲尊敬の意がない場合は、▲1点減点。

▲過去の意がない場合は、▲1点減点。

乙(5点)

(解答例)

A ○2点

B ○1点

C ○1点

D ○1点

もし郭公の声を一声も聞かないで、帰ってしまったら、残念なことだろう。

■各加点要素の加点の条件

A 「もし郭公の声を一声も聞かないで」(2点)

※「もし一声も聞かで」の解釈。「声」の意味を明らかにする。

▲「もし・声」がない場合は、▲1点減点。

▲「郭公(ほととぎす)」という補いがない場合は、▲1点減点。

○「一声も」は「一回も・ひとつも・一言も・まったく」等でもよい。

○「聞かないで」は「聞かずに・聞かず・聞かないまま」等でもよい。

B 「帰ってしまったら」(1点)

※「帰らたらんこと」の解釈

○「たら」が示す完了(〴〵しまう・した)の意の有無は不問。

×「む」が示す仮定(〴〵たら)・婉曲(〴〵ような)の意がない場合は×。

C 「残念な」(1点)

※「念なかる」の解釈

○「残念だ・無念だ・くやしい」等の意があれば【1点】。

×「おもしろくない・つまらない・趣がない」等は×。

D 「ことだろう」(1点)

※「べし」の解釈

○推量の意があればよい。「に違いない・はずだ」等でもよい。

(1) (6点)

(解答例)

A〇2点

B〇3点

郭公の声に似せた笛を下男に吹かせ、その音を聞いて郭公の初音を聞いたことにして、

C〇1点

和歌を詠むこと。(6点)

■各加点要素の加点の条件

A 「郭公の声に似せた笛を下男に吹かせ」(2点)

- ① 「郭公の声に似せた笛(作り郭公)」で「の意が読み取れば【1点】」。
② 右の意がある上で「男に吹かせる」の意もあれば【2点】。

B 「その音を聞いて郭公の初音を聞いたことにして」(3点)

- 〇 解答全体から「偽物の郭公の声(作り郭公)」によって「初音を聞いたことにする・人々に初音だと思わせる」先に郭公の声を聞いたと偽る」等の意が読み取ればよい。

C 「和歌を詠むこと」(1点)

※要素A・要素Bがいずれも0点の場合は得点できない。

- 〇 「和歌を詠む」の意が読み取ればよい。

(2) (4点)

(解答例)

A〇1点

B〇2点

C〇1点

かえって 不都合な ことだろう (13字) (4点)

■各加点要素の加点の条件

A 「かえって」(2点)

※ 「なかなかなる」の解釈

○ 「なまじ・なまじっか」でもよい。

× 「中途半端だ・なかなか・かなり」等は×。

B 「不都合な」(3点)

※ 「なかなかなる」(かえって) どのようなかの補い

○ 「よくない」・「まずい」・「不誠実だ」・「残念だ」・「甲斐がない」・「価値がない」等でもよい。

C 「ことだろう」(1点)

※ 「べし」の解釈

○ 推量の意があればよい。「に違いない・はずだ」等でもよい。

問七 6点

(解答例)

A〇3点

B〇3点

本物の郭公が鳴いたのを知らず、準備していた下男が郭公の声に似せた笛を吹いているのだろう、
ということ。(50字)(6点)

■各加点要素の加点の条件

A 「本物の郭公が鳴いたのを知らず」(3点)

○ 「本物の郭公が鳴いたの知らない」の意が読み取ればよい。

△ 「本物の」の意がない「郭公の鳴き声がしたと知らず」は【2点】。

△ 「本物の郭公が鳴いたのを知っていれば」は【2点】。

B 「準備していた下男が郭公の声に似せた笛を吹いているのだろう、ということ」(3点)

○ 「準備していた下男が郭公の声に似せた笛を吹いている」の意が読み取ればよい。

✖ 「郭公の声に似せた笛(作り郭公)を吹く」の意がない場合は×。

○ 「準備していた」は「あらかじめ潜んでいた・山に隠れていた」等でもよい。

▲これがない場合は、▲1点減点。

○ 「下男」は「男・家来・従者」等でもよい。

▲これがない場合は、▲1点減点。

問八 6点

(解答) ホ

四 漢文 50点

問一 2点×4＝8点

(解答) a ここにおいて b ひととなり

c わかき d かつ

「採点のポイント」

△c「わかき」は△1点。

※送り仮名不足0点。

例 a「ここにおいて」 b「ひととな」 c「わか」 d「か」

※誤答(例)

- a これにおいて ここにおいて
- b ひとになり ひととなる ひとのため
- c わかし わかく すくなき すくなし すくなく
- d まさに しばらく

問二 4点×2＝8点

(解答) A＝口 B＝二

問三 7点

(解答) 吳起殺_二其謗_レ己者三十余人_一

「採点のポイント」

- ※送り仮名やその他(不要な記号や数字)を書いたものは0点。
- ※返り点の誤り※。完答のみ○。

問四 6点

A○1点 B○2点

C○1点 D○1点 E○1点

(解答例) 私は 大臣にならなければ、二度と 衛には 帰らないつもりだ。(6点)

「採点のポイント」

- A× 「呉起は」とするもの×0点。
B○ 「大臣」は「卿相」のままでも可。「卿や宰相」なども可。
○ 「ならなければ」は、「なれなければ」「ならないかぎり」など条件句になっていることが必要。
C○ 「二度と」は「再び」「もう一度」など可。
○ 「二度と」がなくともEとあわせて「戻る」とは「戻ることではない」とするも可。
E○ 「つもりだ」の有無は不問。
○ 「帰る」は「入る」「足を踏み入れる」など可。

問五 8点

A○2点 B○3点

C○3点

(解答例) 呉起が 母の葬儀に衛に帰らなかったことを 薄情だと考えたから。(8点)

「採点のポイント」

- A○ 「衛に」はなくとも「帰国せず」「帰って来ない」などがあれば可。
C○ 「薄情だ」は「親不孝」だ「不義理だ」「徳に反する」も許容。
▲ 「不孝」の「孝」を「考」と誤記▲減点1点。

問六 10点

A○2点

B○2点

(解答例) 魯と衛は兄弟の国であるのに、衛での犯罪者である呉起を將軍にすると

C○2点

D○2点

衛との関係が悪化し、斉に勝ったことで諸侯が魯を警戒し、

E○2点

軍事的な脅威となるから。(10点)

「採点のポイント」

- A○ 魯国と衛国がもともとは兄弟国だという点が示されていること。
B○ 呉起が衛国に於て犯罪(殺人)を犯している点が示されていること。
C○ Bの結果、魯国と衛国の関係が悪化する点が示されていること。
D○ 呉起を將軍して齊国に勝利すると、諸侯が魯国を警戒する点が示されていること。
E○ Dの結果、かえって軍事的な脅威が増す点が示されていること。
○ B CとD Eはまとめた表現でも近い内容が示されていれば○。

問七 3点

(解答) 示